



曹洞宗  
天祐山 公田院 仁叟寺

二十九世 再中興  
雲巖石橋大和尚 五十回忌

併修

大本山總持寺二祖峨山韶碩禪師六百五十回大遠忌



日 時 平成27年6月15日(月)  
午前10時  
場 所 仁叟寺本堂  
大導師 大本山總持寺副貫首  
大雄山最乘寺真如臺  
石附周行大老師

二十九世 <sup>さいちゅうこう</sup>再中興 <sup>うんがんしゃっきょうだいおしょう</sup>雲巖石橋大和尚

【宗門歴】

明治17年(1884) 11月22日仁叟寺二十八世卍成海雲の長男として誕生。  
※渡辺海雲が、慈恩寺二十一世の時であった。

明治32年(1899) 3月3日仁叟寺二十七世大應禪海に就いて得度。

4月 雙林寺に於いて安居修行。間島祖禪住職に随侍。

明治35年(1902) 東京市曹洞宗第一中學林に入学。

明治38年(1905) 東京市曹洞宗第一中學林卒業。

4月16日永源寺田宮巖堂住職に就いて立職。

8月30日仁叟寺二十八世卍成海雲の室に入り嗣法。

明治39年(1906) 10月2日卍成海雲の後住として龍源寺二十五世拜命。

大正6年(1917) 龍源寺に於いて結制(初会)修行。

大正13年(1924) 7月25日仁叟寺二十九世として晋山。

11月25日晋山式を兼ね、二十八世退董式。

仁叟寺開山四百回忌法要併修。

大正11年(1922) 第四・第五・第七教区(多野藤岡地区)宗務所長就任。  
(昭和14年まで16年間)

昭和7年(1932) 多野郡各宗協会長就任。併せて群馬県連合佛教会  
常務理事就任。(昭和14年5月まで)

昭和21年(1946) 3月1日曹洞宗宗議会議員、当選(第一期)。

昭和33年(1958) 4月1日吉井町佛教会初代会長就任。

教化にも力を注ぎ、多くの弟子を仁叟寺に受け入れた。

宗龍寺(明和町)、永福寺(高崎市)、東福寺・龍松寺・大林寺(神流町)、宗永寺・光徳寺・養命寺(藤岡市)、天徳寺・向陽寺(甘楽町)、龍源寺・全林寺・玄太寺(吉井町)、大中寺・繁桂寺(栃木県栃木市)、龍泉院(長野県佐久市)等より徒弟を預かり育てた。

大正15年(1926) 4月16日結制(再会)、首座天徳寺徒弟安藤泰道師。

昭和6年(1931) 4月16日結制(再会)、首座龍泉院徒弟木村孝順師。

昭和9年(1934) 3月16日結制(再会)、首座永福寺徒弟青海保男師。

昭和11年(1936) 4月16日結制(再会)、首座向陽寺徒弟織田澤守山師。

昭和13年(1938) 4月16日結制(再会)、首座養命寺徒弟箱守良英師。

昭和15年(1940) 5月16日結制(再会)、首座繁桂寺徒弟繁岡實秀師。

吉井町神保・柿田寅雄、中里村大字魚尾・西澤芳司、栃木県佐野市・山本石龍ら在家から出家した者の得度を行っている。

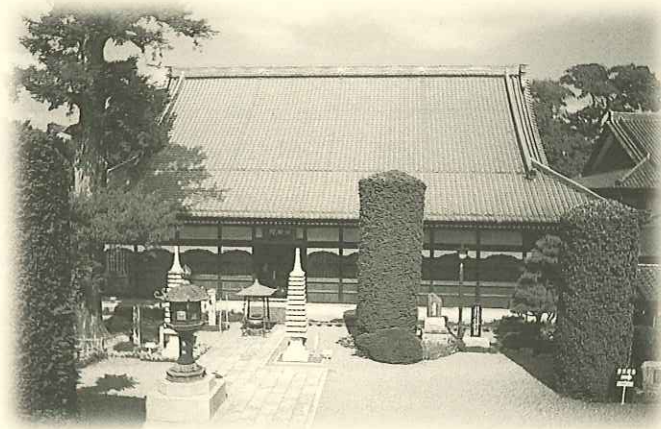
## 【社会歴】

社会的にも広く活躍し、明治40年(1907)4月、日野村小学校教諭就任。  
寺から山越をして毎日徒歩で通勤をしていたという。  
大正3年(1914)3月、日野村小学校教諭退職。  
保護司・調停委員・民生委員・農地委員などを歴任。  
特に保護司会では、群馬県保護司会副会長も務めた。  
多年の功に依り昭和21年(1946)9月13日に司法大臣表彰、  
同24年(1949)10月31日には法務総裁表彰を受けた。

## 【寺内整備歴】

昭和19年(1944)、東京都北区から90余名の疎開学童を受け入れ、疎開学童の父代わりとして慕われた。法嗣の一人である長男の渡辺忠久は、駒澤大学卒業後、龍源寺27世に就任。後、陸軍に徴兵され、フィリピンマニラ沖にて米軍の潜水艦攻撃を受け戦死した。世寿、33歳。法名、龍源寺二十七世大義忠久大和尚。当寺の檀信徒も77名もの戦死者を数えるが、戦局が激しさを増す中での寺院運営は大変であった。また現在、高崎市指定重要文化財の古梵鐘は、名鐘故に供出を免れた。半鐘も、地域の喚鐘として同じく供出を免れた。昭和20年8月15日に終戦となり、その後GHQ指令に依る農地解放が行われた。地租改正の後、辛苦を重ねて回復した寺領は、境内地を除き悉く解放となった。その際、地主代表の農地委員として多大な努力をした。

寺内整備にも尽力した。昭和20年代から30年代に掛けて、萱葺屋根であった惣門・山門・本堂・開山堂等諸堂宇の屋根替工事を行った。毎年、檀信徒は勿論地域の方々の協力を得て、萱葺替作業を行ってきたが、労力、時間、経済的にも大変であった作業ゆえ、屋根の瓦葺工事は長年の念願であった。また、庫裏を新築し、山内外に亘る寺院整備を行った。



【遷化と可再中興】

昭和41年(1966)2月3日、遷化。世寿、83歳。

在山期間43年間は、歴代住職でも最長である。仁叟寺再中興号及び権大教師号の追贈が、本葬の際に行われ、寺院・檀信徒・地域挙げての大きな葬儀は語り草となった。本寺雙林寺の石附賢道住職が兼炬師を勤めた。



仁叟寺二十九世

渡邊石橋

聯燈二十九世雲巖石橋大和尚ハ 大正十三年晋住以来 實ニ四十三年  
道心堅固ニシテ常ニ寺門ノ興隆ト檀信ノ教化トニ盡シ 入ッテハ本堂  
庫裡山門等ノ屋根改修 全伽藍ノ改築整備ニ尽力シテ 面目ヲ一新シ  
出デテハ宗務所長 宗議會議員ヲ勤メ 福祉事業ニ精進シ ソノ芳蹟  
ハ後世ニ傳ウベキモノアリ 是ニ寺門ノ棟梁 世間ノ光明タリ コレ  
ニヨツテ 寺基盤堅固ニシテ法輪逾ニ常轉セン  
茲ニ再中興ヲ免牘シテ 永クソノ勲功ヲ表彰ス

昭和四十一年二月三日

本寺 最大山雙林寺五十世

實參賢道 印 印